

1 講演会・フォーラム等による研究成果の公開

[概要]

歴博は、研究の実施状況を広く内外に公開するためにさまざまな催しを行っている。主要なものとしては、歴博講演会・くらしの植物苑観察会・歴博フォーラム・歴博映像フォーラム・歴博映画の会・展示解説や、総合展示・企画展示の関連イベントがあげられる。また歴史と文化への好奇心をひらく『REKIHAKU』を刊行している。こうした催しや刊行物を通じて、研究者のみならず一般の方々にも歴博の活動に興味と関心を持っていただくことを目的として、総合資料学に基づく研究活動とその成果の発信を行っている。

本年度は、歴博講演会5回、くらしの植物苑観察会12回、歴博映像フォーラム1回、歴博映画の会3回、展示解説、総合展示・特集展示・企画展示関連イベントの実施を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、その一部を延期・中止した。これらの事業を通じて研究成果の発信と周知、それに伴う討論や反響を経て、さらなる調査研究の課題を模索している。

広報連携センター長 山田 慎也

[講演会・フォーラム等]

歴博講演会 不定期の第2土曜日13:00~15:00 国立歴史民俗博物館講堂にて

本館教員や館外の研究者が、自らの研究分野の最新情報を一般の聴講者にも分かり易く発表する。不定期の第2土曜日に本館講堂で実施し、2021年度は5回開催を計画していたが、緊急事態宣言が発出されたため、うち1回を中止した。

開催日程・演題・講師については「第二部 事業編 IX 広報・普及 2 歴博講演会」を参照。

くらしの植物苑観察会 毎月第4土曜日13:30~15:30 (12月は第3土曜日) くらしの植物苑にて

くらしの植物苑は、生活文化を支えてきた植物を系統的に植栽し、素材となった植物と博物館の展示資料を関連づけ、歴史への理解を深めることを目的として、1995年9月に開設した。観察会は、一般の方を対象に実施し、四季折々の植物を観察し、人と植物とのかかわりについての理解を深めている。毎月原則第4土曜日にくらしの植物苑で実施し、2020年度は12回の開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、10回開催した。

開催日程・演題・講師については「第二部 事業編 IX 広報・普及 4 くらしの植物苑観察会」を参照。

歴博フォーラム・歴博映像フォーラム等

歴博映像フォーラム15

「映画とアイヌ文化」2021年5月15日 (土)

主催 国立歴史民俗博物館

会場 国立歴史民俗博物館 講堂

参加者 49名

※2021年3月6日(土)から延期

1. 開催趣旨

アイヌ文化をテーマとするマンガのヒットや、国立アイヌ民族博物館の開館など、アイヌ文化の表象は、あらたな段階を迎えており、そこへの注目も高まっている。本フォーラムでは、映画化されたアイヌ文化について、地域の記憶・文化資源・表象という観点から考察し、映画という技術と制度が孕む可視化/不可視化の問題や、オーセンティシティ(真正性、本物らしさ)/インテグリティ(完全であること)の問題について考える。今回の歴博映像フォーラムでは、国立アイヌ民族博物館がオープンした白老で記録された映画を中心に検討する。

2. 開催内容

12:50~12:55 開会の挨拶 西谷 大(国立歴史民俗博物館長)

12:55~13:00 趣旨説明 内田 順子(国立歴史民俗博物館)

- 13:00～14:00 「アイヌ民族を撮影した人類学映画の歴史—1925年撮影、八田三郎『白老コタン アイヌの生活』を中心に」
 岡田 一男（株式会社東京シネマ新社）
- 14:00～14:45 「映画制作の主体とは—旧アイヌ民族博物館の記録映像制作をとおして」
 内田 順子（国立歴史民俗博物館）
- 14:45～14:55 休憩
- 14:55～15:55 「アイヌ民族博物館から民族共生象徴空間へ—地域の記憶の映像化に向けて」
 立石 信一（公益財団法人アイヌ民族文化財団）
- 15:55～16:10 コメント 野本 正博（公益財団法人アイヌ民族文化財団）
- 16:10～16:25 コメント 春日 聡（国立歴史民俗博物館・客員准教授）

総合司会：川村清志（国立歴史民俗博物館）

3. 総括

本フォーラムは、アイヌ文化の表象があらたな段階を迎えている状況の中で、映画化されたアイヌ文化について、地域の記憶・文化資源・表象という観点から考察することを目的として開催したものである。具体的には、民族共生象徴空間（以下、ウポポイ）が開業した白老で記録されたアイヌ文化を対象とする記録映像を中心に取り上げ、映画という技術と制度が孕む可視化/不可視化の問題や、オーセンティシティ/インテグリティの視点から、何を撮影し（でき）、何を撮影しない（できない）のか、そして、何を伝えるためにどのように編集するのか、さらに、何をもち「アイヌ文化」として映像化し、その内容を、誰がどのように決定しているのか、などについて検討した。岡田一男氏の講演では、アイヌ民族を撮影した歴史的な人類学映画が、撮影された時点より少し前の「伝統的なアイヌ文化」の姿を再現しようとしたものであることが具体的な映像により示された。内田順子の講演では、2010年度にアイヌ民族博物館における伝承活動を記録した映像により、表象の「主体」をキーワードとして、博物館活動や映像制作における「協働」の内実を問うことの重要性が指摘された。立石信一氏の講演では、アイヌ民族博物館が閉館する最後の1日を中心に記録した映像のほか、ウポポイへと環境が変化する中で、白老という土地の「記憶」に対する思いに焦点を当てた新作の映像に基づき、博物館職員が同僚と協働し、ともに制作主体として映像を作ることの可能性が示された。

以上の3つの講演に続いて、野本正博氏のコメントでは、研究者が一方向的に撮影した「伝統的なアイヌ文化」の記録を忌避する気持ちと、それと反対に、現在の文化伝承活動の中での活用の可能性などが語られた。また、春日聡氏のコメントでは、映像・音響の技術的側面から、完全な記録の可能性などについて事例を示していただいた。アンケートにあるように、フォーラムの内容は概ね好評であり、映像・講演・コメントのバランスは適切であったと思われる。今回は、映像の著作権・肖像権などの観点から、講演者の要望により、インターネットを併用した開催は行わなかったが、多くの応募者を断らなければならなかった点は心残りである。

会場運営の点では、アンケートにあるように、個々の要望（温度や座席の位置）にどれだけ応えられるかなど課題はあるが、コロナ禍でのフォーラムを安全に実施できたことについて、広報連携センター等の関連教職員に大変なご助力をいただいたことに、心から御礼申し上げる。

歴博映画の会

【概要】

国立歴史民俗博物館では、日本の民俗と歴史に関する映像資料の制作と収集をおこなってきた。民俗に関する映像制作にはふたつのカテゴリーがあった。ひとつは「民俗研究映像」で、当館の民俗研究系の研究者が、各々の研究対象を、専門的な視点から映像化するものである。1988年より制作を開始し、現在も継続している。もうひとつは歴博と文化庁が協議の上、「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」の中から撮影対象を選び、一般向けにわかりやすい映像を記録する「民俗文化財映像資料」である。当館ではこのほか、民俗学・歴史学関連の民俗誌映画・記録映画を収集・保管している。

これらの映像を通じて民俗と歴史への知識と理解がより深められることを期待し、2007年度より、国立歴史民俗博物館友の会の協力を得て、「歴博映画の会」を開催して上映することとした。当初、「歴博映画の会」のプログラムは、本館研究部の職員が考案していた。しかし、2012年度からは、年3回のうち1回を研究部職員が友の会の担当者として協議し、歴博が所蔵する映像資料のいくつかを視聴しながら、テーマと上映作品について検討してプログラムを作成するように変更した。2021年度の開催は下記の通りである。

【第36回歴博映画の会】

1. 開催主体 主催：国立歴史民俗博物館，協力：国立歴史民俗博物館友の会
2. 開催日時 2021年7月10日（土）13：30～15：30
3. 場所 国立歴史民俗博物館講堂
4. テーマ 市場と人びと
5. 参加者 41人
6. 上映作品 『会津の初市』（33分）
企画：国立歴史民俗博物館 協力：文化庁 制作：桜映画社，2003年
その他，千葉県勝浦市を中心に実施している市の現地調査に基づく映像。
7. 内容
かつて全国各地で見られた正月の初市の習俗は，現在では少なくなっている。会津地方では，会津若松市の十日市，喜多方市の小荒井市（こあらいいち）・小田付市（おたづきいち）など，年頭の初市の習俗が伝えられている。初市では市神が祀られ，縁起物が売り出されるなど，人びとの交流の場となっている。2002年度に歴博の企画で制作した記録映画『会津の初市』を上映し，解説する。また，日本において，現在も定期市が存続する代表的な地域として新潟県と千葉県がある。歴博共同研究「定期市からみた地域の生活文化の歴史と多様性に関する研究」（2020～2022年度，代表：島立理子）で実施した現地調査に基づき，千葉県勝浦の朝市の映像を中心に紹介し，市・定期市の地域ごとの特色について解説する。
8. 解説 内田順子 本館研究部・教授

【第37回歴博映画の会】

1. 開催主体 主催：国立歴史民俗博物館，協力：国立歴史民俗博物館友の会
2. 開催日時 2021年9月11日（土）13：30～15：30
3. 場所 国立歴史民俗博物館講堂
4. テーマ 祭祀芸能の音風景を見る
5. 参加者 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期

【第38回歴博映画の会】

1. 開催主体 主催：国立歴史民俗博物館，協力：国立歴史民俗博物館友の会
2. 開催日時 2022年2月12日（土）13：30～15：30
3. 場所 国立歴史民俗博物館講堂
4. テーマ 八幡製鐵所 戸畑製造所の建設
5. 参加者 まん延防止等重点措置の発出のため中止

【展示解説】

総合展示・特集展示ギャラリートーク

一般を対象に，本館教員が総合展示や特集展示の内容について解説し，理解を深めてもらうことを目的とした企画で，主に特集展示の解説を中心に開催している。2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止した。

企画展示ギャラリートーク

一般を対象に，本館教員及び館外研究者が，企画展示内容について解説し，理解を深めてもらうことを目的とした企画である。2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

【特集展示・企画展示関連イベント】

企画展示『学びの歴史像—わたりあう近代—』の関連イベントとして「ぬり絵シート」を，『中世武士団—地域に生きた武家の領主—』の関連イベントとして，「地形で読み解く武士団の本拠地シート」，「かぶとを折ってみよう」を開催した。

- ・企画展示『学びの歴史像—わたりあう近代—』，2021年10月12日（火）～12月12日（日）
 - ①「ぬり絵シート」企画展示室，約2,500枚配布
- ・企画展示『中世武士団—地域に生きた武家の領主—』，2022年3月15日（火）～5月8日（日）
 - ①「地形で読み解く武士団の本拠地シート」，企画展示室，約4,500枚配布
 - ②「かぶとを折ってみよう」，たいけんれきはく，約1,200枚配布